

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4090800170		
法人名	社会福祉法人 ふくおか福祉サービス協会		
事業所名	ささえ手ホーム 綾		
所在地	福岡県福岡市東区水谷1丁目30番22号 (電話) 092-674-3330		
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 10 日	評価結果確定日	平成 26 年 12 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域とのつながりを大切に地域の方へ行事参加の呼びかけ、地域活動への参加を少しずつ始めています。施設内での生活が閉鎖的にならないよう地域の皆さんが気軽に訪問できる施設作りを目指しています。施設内では「今できる事」を大切にお一人お一人が自分らしく生き生きと生活できるよう心掛け支援できるよう努めています。また、安心・安全に生活できる環境づくりを行い継続した日々を送られるよう配慮しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 26 年 10 月 27 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

閑静な住宅地の一角にある3階建ての静かな佇まいのビルで、近くには自然豊かな公園もある。事業所の名前を大きく主張することはないが、地域住民の認知度は高い。地域のお宮のご神木にちなみ、地域に根ざした愛されるグループホームになることをめざし、事業所の理念は職員で考えている。職員は思いやりがあり、一人ひとりと向き合い丁寧な対応に心がけており、家族や地域の方が安心してこの場所で暮らしていける清潔感ある事業所である。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした施設になるように事業所理念を考え各ユニットに掲示し理念に向かい行動できるようにしている。	事業所の理念は職員が考え、作り上げた。エレベーターホールやユニット玄関に理念が掲示され、職員一人ひとりがおのずと理念に沿うような姿勢で仕事に取り組んでいる。地域に根ざし、地域住民との交流の機会を図っている。理念を具現化する取り組みは、今後の課題となっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーへの買い物や公園への散歩で近所の方、園児、学生と挨拶を交わしている。回覧板を届ける際は利用者と職員が一緒に隣家を訪問する等し交流を図っている。	利用者と近くのコンビニや公園まで毎日のように散歩し、往来者とは自然に会話が弾み、交流の機会が多い。自治会に加入し、回覧版の受け渡しは利用者と一緒に行っている。地域の行事だけでなく「綾だより」も回覧板で紹介されている。今年は納涼祭に地域住民の参加があり、花火大会では屋上を開放した。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場や月1回の公園清掃に参加し地域の方々に現状の報告や認知症について理解を求めるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の活動報告・利用状況を説明報告し参加者の方々よりの情報やご意見を頂きサービスの向上につなげるよう努めてる。	運営推進会議は2ヶ月に1度開催している。地域包括支援センターの職員や自治会長等地域住民の参加が多くあり、会議では活発な意見が交換されている。異なる立場の人がそれぞれの視点で交わす意見は、サービスの向上に大きく活かすことができている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携で入居後の様子や問題が起きた場合に相談や報告を行いながら支援できるよう協力体制に努めている。	市担当者とはこまめに連携をとっている。日頃から施設の状況を伝えており、個々のケースの相談にも応じている。地域包括支援センターの職員が事業所勉強会の講師を務めることもあり、「綾だより」は、会議の時に渡し、関係は築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず鈴を取り付ける等で安全対策を行っている。身体拘束をせずに生活できるケアを職員全員で話し合い実践するよう努めている。	玄関や居室は施錠せず、鈴をつけている。外出傾向がある利用者は、サインを見逃さず制止しない対応を心がけ、そっと寄り添い話しかける等行い、時にはともに屋外を散歩する。近隣住民に理解を求め、見守りや声かけ、連絡をしてもらえる関係を築いている。拘束廃止に関する勉強会を行い、毎月のミーティングでも具体的取り組みを検討している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員との面談やケア実施内容を日常的に確認することで状況を把握し虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回の法人全体研修がある他、ユニットミーティングで講師による勉強会を開催し全員が制度について理解を深める機会を設けた。	地域包括支援センターの職員による権利擁護の勉強会を開催し、職員一人ひとりが制度を理解し、問い合わせや質問に対応できる状態である。制度を利用している利用者もあり、必要だと思われる家族へは話をするようにしている。	現在は必要に応じて、個別に制度の説明を行っているが、契約時や家族会を通じて、制度の概要を説明することが望まれます。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご本人・ご家族に説明を行い解らない部分がないか確認を行いながら理解していただけるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情・相談窓口の説明と重要事項説明書にも記載があることを説明している。また入居後は、意見箱のご利用や面会時に率直なご意見をいただき改善できるよう努めている。	利用者・家族の意見や要望を聞き取り、運営に反映させている。思いを言葉で伝えられない利用者は、表情や態度を観察し、意向を確認する。家族に対し、面会時には個別で意見等を聴くよう心がけ、利用者の状態等をコメントに記入した手紙を毎月の郵便物で担当者から送付している。意見箱や苦情窓口も設置している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見交換や必要時には個別に面談を行い職員の考えを理解し運営に反映できるようにしている。	自己評価の取り組みは、職員と管理者がともに行った。月に1回のミーティングでは、それぞれが事前に議題を提案し、職員自らが業務改善に向け積極的に取り組んでいる。日常的にも積極的な意見が多く、管理者はその意見を運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回法人による意向調査を実施、職員の意見や希望などを把握するようにしている。また、ミーティング時や面談の機会を設け意見を聞きながら職場環境の改善を図るように努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用については、特に制限は設けていない。職員の経験や得意分野を活かし働くことでやりがいや自信を持ち仕事ができるようにしている。	職員の採用は、性別や年齢、経験や資格等はこだわらない。入職後はやりがいや自信をもって働けるよう、資格取得を積極的に応援している。スキルアップのための外部研修の機会も多く、その能力が更に発揮できるよう、安心して働ける職場づくりを行っている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体で年1回、人権研修を実施し全職員受講し人権について考える機会をもっている。	法人全体の研修会が年に3回あり、「接遇」「人権」「認知症」は必ず行われており、全職員が受講している。受講後は、人権について考え業務に携わる。日々の業務は利用者主体で、一人ひとりと向き合い行われ、職員の意識の向上のつながっていることが確認できる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量を把握し、内部・外部研修を受けることでレベルアップに努め、個人の目指す資格取得があれば受講できる体制を作りスキルアップを図っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に加入し、協議会が実施する勉強会に参加することで他グループホームと意見交換を行いサービスの向上に取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族との面談や入居前の利用サービス機関から情報収集し環境の変化があっても安心して生活していただけるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に要望や困られていることを伺い不安を解消し、信頼関係を少しずつ築くよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	ご本人・ご家族の希望するサービスを聞き取り 状態を判断し必要とするサービスを計画書 に反映するよう努めてる。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状態に合わせ出来る事、出来な い事を見極め一緒に生活し支えあうよう努め ている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	ご家族との外出、外泊は自由に行っていた い。面会時には本人が希望されている ことを伝え家族との関係性を大切にした支援 を心がけている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の意向などにより配慮が必要な場合を 除き、来訪・面会については特に制限を設け ずに受け入れるようにしている。	利用者の馴染みの関係を継続するために、管 理者やケアマネージャーは、本人や家族、関 係機関から情報を収集している。利用者に定 期的に会いに来られる知人や年賀状等の手 紙、電話のやり取り等も積極的に行い、馴染 みの関係を継続するための支援がなされてい る。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係性に配慮し職員が間に入ったり、 入居者同士の歓談は見守るなど孤立する ことのないよう注意を払った支援に努めてい る。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	契約終了後もご相談があればいつでも連絡を いただけるようお伝えしている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人の生活リズムに合わせ、時々要望を把握し対応できるよう努めている。また、職員間でも情報の共有を図っている。	職員は、利用者への日常的な声かけや一人ひとりの生活歴、経験などをより深く把握することにより、利用者の希望や考えの把握に努めている。故郷への思いを訴える利用者には、その地域の写真を見ながら語らい、また、意思疎通が困難な利用者の意向を察して野球観戦の場を設けるなど、利用者の思いや希望の把握と共に寄り添える支援を行っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に至る経緯や以前の環境に配慮しご本人、ご家族の意向を確認しながらサービスに活かすよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中での変化や状態の把握を行いながら、ご本人が有する力を発揮できるような環境作りに努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望や意向を確認し医師、看護師、ＯＴ、ＰＴ等の意見を参考にしている。また、月1回の職員によるケアカンファレンスでは状態確認や課題の抽出を行い介護計画に反映している。	ユニット別のケアカンファレンスを行い、職員全体で家族や主治医、訪問看護師と連携し、介護計画を立てている。特に最近ではリハビリテーションや認知症専門医によるより専門的な個別ケアの意見もとり入れて計画している。見直しは6ヶ月に1回で、些細な事でも変化がある時は随時検討している。家族には説明を行い、署名・捺印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人観察記録に毎日のケアの実践、状態観察を記録し職員全員で周知するよう努めている。また、申し送り・職員会議で再度確認を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向に出来るだけ添えるよう柔軟なサービスが行えるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の回覧板での情報を各ユニットに掲示し自治会での活動を把握するよう努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族の希望に応じ対応している。入居前のかかりつけ医を希望される場合はご家族の協力の下、受診を実施して頂いている。	希望する医療機関への受診の付き添いは基本的には家族が行い、必要に応じて職員が行う事もある。ほとんどの利用者がかかりつけ医として訪問診療を希望しており、職員は受診後の報告について細かに家族に連絡している。また、24時間365日、訪問看護と医療機関を結ぶサポート体制も構築されており、緊急時の備えも万全である。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションによる健康チェックを各ユニット2週間毎に実施している。職員により状態報告や相談を行っている。必要時は看護師より医師に連絡を取り判断を仰ぐ場合もある。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医との連携を図ることで入院時の情報提供が出来る。早期退院に向けて病院関係者との情報交換を行うなど関係づくりに努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の介護については事業所での対応が可能な限りご本人・ご家族の意向に添えるよう、医師・看護師などと話し合いの場を設け取り組んでいくよう努めている。	平成26年1月に見直して、新たに独自の方針を明文化し、家族に説明し同意書をとっている。事業所は本人や家族が希望すれば、基本的に看取りを行う方針である。しかし、重度化したその状況に応じて、かかりつけ医、関係者と話し合う中で、病院への入院を希望された場合は、その支援を行うなど、チームで情報共有すると共に、本人も家族も納得でき安心できる支援を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のフローチャート、緊急連絡網の作成を行い事故発生後に再度確認することで緊急時に対応できる体制に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。また、校区安全安心マップを掲示し避難所・避難場所の把握し近隣の方には施設が避難場所になることを伝え協力体制に努めている。	マニュアルに基づき、毎回、消防署の協力を得て、時間帯の設定も変えた年2回の避難訓練を行っており、地域に参加協力を呼びかけている。火災報知機側にはわかりやすいフローチャートでの手順書や緊急連絡名簿が備えられている。また、賞味期日が管理された食料、飲料水に加え、寝袋などの非常用備品は事業所内2か所に準備されている。	職員全員が非常用備蓄に対して全体把握ができるような仕組みと工夫をして欲しい。
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩、目上の方々であることを常に意識し言葉遣いや態度が相手の方に不快な思いを持たれないよう注意した対応に心掛けている。	職員は特に利用者への排泄時や入浴時の介護には利用者を傷つけないよう注意を払っており、慣れ合いからくる不用意な言葉かけにもお互いに注意をするなど、日ごろから配慮している。また、プライバシーの保護や個人情報の取扱いに関して、入職時のオリエンテーションや接遇研修で職員の意識向上をはかっている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が望まれることを日頃から感じ取り、一方的な支援にならないよう選択肢を設けながら自己決定できる機会作るようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく一人ひとりがどう過ごされたいか、一日の流は入居者の方々の状態や希望に可能な限り合わせ支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容は本人で不十分な部分は支援し身だしなみに心配りをしている。また、行事や外出の時には普段お化粧をされない方も薄化粧をする等し気分転換をしていただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食手作りの食事を提供し一緒に出来る部分は協力していただいている。おやつは希望される物を尋ね一緒に作る、買い物に行くなどし楽しみを作るようしている。月に数回お弁当やお好み焼きパーティー等を企画し食事のバリエーションを考えている。	利用者はお茶入れやテーブル拭きなど食事の準備や後片付けを職員と共に行い、職員は同じテーブルで同じ食事を摂りながら、自然な形で食事介助を行い、和やかな会話も交わしている。また、カロリー計算された献立が計画されているが、利用者の希望でメニューの変更や外食にするなど、食事が楽しみとなるよう工夫している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事・水分量の把握を行い、不足している方には捕食や好きな飲料の提供を実施している。また、食事形態も状態に合わせ対応できるよう日々の観察を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い実施している。義歯使用の方は夜間ボリデントでの消毒を行い必要な方は訪問歯科によるケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを理解し記録をしている。排泄表を使用しているが記録に囚われず本人からのサインを見逃さないよう努めている。失敗の少ない方はリハパンから布パンツへの変更等に取り組んでいる。	職員はトイレに行く利用者を見守り、利用者一人ひとりの仕草やサインを見逃さず、何気なくトイレに誘っている。また、尿意や便意が無い利用者へも排泄表からパターンを予測し、定時の声かけ・誘導を行い、なるべくトイレでの排泄を目指している。おむつなどの使用についても常に見直し、家族とも話し合い、紙パンツが布パンツに変更になった利用者もいる。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については訪問NSにも相談し排便コントロールを行っている。下剤だけではなく、散歩の実施、ヨーグルトや乳製品を活用することでスムーズな排便に心掛けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	週3回の入浴を提供している。入浴日は決まっているが本人の体調や状態、希望に合わせて入浴日の変更を行い気分転換の場となるよう配慮している。	毎日入浴の準備をしている。利用者はその日の体調や気分により変更する場合もあるが、隔日入浴している。職員は、利用者にとってくつろいだ気分での入浴となるよう、利用者の好みの話題で話をしたり、個々の心身状況に応じ安心できる入浴介助方法の工夫をしている。また、入浴拒否がある際は無理をせず、入浴日の変更や清拭などで対応している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせ就寝時間は決まっていない。体調に合わせて午前、午後の臥床時間を設ける等一人ひとりに合わせた支援を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は医師の指示の下、調剤薬局と連携し把握に努めている。不明な点があれば調剤薬局に連絡し確認している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を大切に趣味や得意なことを理解し入居後も本人の楽しみとなるような活動の場を設け生きがいとなるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションで散歩を実施し気分転換ができるよう努めている。また、行事計画の中に四季に応じた外出計画を立てその中にご家族と一緒に外出できる機会を設けている。	天候にもよるが、ほぼ毎日散歩するように努めており、地域の人たちとも話をするなど関わりに努めている。年間を通して、計画してドライブや外食などにも出かけており、家族の協力を仰ぐ事もあるが、外出先での利用者の写真を、各居室担当者が家族に手紙に添えて送ることもあり、外出を通して利用者の喜びや様子を職員は家族とも共有している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族の意向により小額の現金を所持されている以外は金銭所持はされていない。必要時は立替金で購入可能としている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が手紙を書かれる際の支援、ご家族からの電話の取次ぎなど本人、家族の意向に応じ対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは自然採光で風通し良く窓の外景色も気持ちを和ませている。光に敏感な方にはカーテンを利用する等し落ち着いて過ごせる空間作りに努めている。	全体的にすっきりと整理整頓されており、玄関、台所、居間、トイレ、浴室など掃除も行き届いて、清潔感ある居心地良い空間になっている。共有部分には生花や季節が感じられる利用者の作品、外出先での写真が楽しい雰囲気で掲示されている。室温のみならず湿度管理にも気を配り、安全に留意された場所での加湿器の利用もある。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、食堂、居室と好まれる場所で自由に過ごしていただいている。居間ではソファでくつろぎテレビを楽しみ、食堂では好きなＣＤを聞かれる等思い思いに過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトはご本人、ご家族が入居時に本人が使いやすいよう設置され安全にも配慮されている。写真や小物を飾ることで自分らしさの演出もされている。	居室内には筆筒や置物、カレンダーなど一人ひとりの馴染みの物が持ち込まれている。その他、デッサンを得意としていた利用者にはその作品集、家族の写真や家族の位牌など、その利用者が大切と思う持ち物を居室に持ち込み、その人らしく生き、居心地良く過ごせるようにと配慮が伺える。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアには手すりの設置、トイレ・浴室には手すりに加え呼出しボタンを設置、玄関にはテレビ付きインターホンを設置し安全に配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした施設になるように事業所理念を考え各ユニットに掲示し理念に向かい行動できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーへの買い物や公園への散歩で近所の方、園児、学生と挨拶を交わしている。回覧板を届ける際は利用者と職員が一緒に隣家を訪問する等し交流を図っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場や月1回の公園清掃に参加し地域の方々に現状の報告や認知症について理解を求めるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の活動報告・利用状況を説明報告し参加者の方々よりの情報やご意見を頂きサービスの向上につなげるよう努めてる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携で入居後の様子や問題が起きた場合に相談や報告を行いながら支援できるよう協力体制に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず鈴を取り付ける等で安全対策を行っている。身体拘束をせずに生活できるケアを職員全員で話し合い実践するよう努めているがご家族希望により1名ベッド柵4本使用している。解除に向け取り組んでいきたい。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員との面談やケア実施内容を日常的に確認することで状況を把握し虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回の法人全体研修がある他、ユニットミーティングで講師による勉強会を開催し全員が制度について理解を深める機会を設けた。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご本人・ご家族に説明を行い解らない部分がないか確認を行いながら理解していただけるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情・相談窓口の説明と重要事項説明書にも記載があることを説明している。また入居後は、意見箱のご利用や面会時に率直なご意見をいただき改善できるよう努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見交換や必要時には個別に面談を行い職員の考えを理解し運営に反映できるようにしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回法人による意向調査を実施、職員の意見や希望などを把握するようにしている。また、ミーティング時や面談の機会を設け意見を聞きながら職場環境の改善を図るように努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用については、特に制限は設けていない。職員の経験や得意分野を活かし働くことでやりがいや自信を持ち仕事ができるようにしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体で年1回、人権研修を実施し全職員受講し人権について考える機会をもっている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量を把握し、内部・外部研修を受けることでレベルアップに努め、個人の目指す資格取得があれば受講できる体制を作りスキルアップを図っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に加入し、協議会が実施する勉強会に参加することで他グループホームと意見交換を行いサービスの向上に取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族との面談や入居前の利用サービス機関から情報収集し環境の変化があっても安心して生活していただけるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に要望や困られていることを伺い不安を解消し、信頼関係を少しずつ築くよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の希望するサービスを聞き取り状態を判断し必要とするサービスを計画書に反映するよう努めてる。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状態に合わせ出来る事、出来ない事を見極め一緒に生活し支えあうよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との外出、外泊は自由に行っていただいている。面会時には本人が希望されていることを伝え家族との関係性を大切にしたい支援を心がけている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の意向などにより配慮が必要な場合を除き、来訪・面会については特に制限を設けずに受け入れるようにしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係性に配慮し職員が間に入ったり、入居者同士の歓談は見守るなど孤立することのないよう注意を払った支援に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご相談があればいつでも連絡をいただけるようお伝えしている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人の生活リズムに合わせ、時々々の要望を把握し対応するよう努めている。また、職員間でも情報の共有を図っている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に至る経緯や以前の環境に配慮しご本人、ご家族の意向を確認しながらサービスに活かすよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中での変化や状態の把握を行いながら、ご本人が有する力を発揮できるような環境作りに努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望や意向を確認し医師、看護師、OT、PT等の意見を参考にしている。また、月1回の職員によるケアカンファレンスでは状態確認や課題の抽出を行い介護計画に反映している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人観察記録に毎日のケアの実践、状態観察を記録し職員全員で周知するよう努めている。また、申し送り・職員会議で再度確認を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向に出来るだけ添えるよう柔軟なサービスが行えるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の回覧板での情報を各ユニットに掲示し自治会での活動を把握するよう努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族の希望に応じ対応している。入居前のかかりつけ医を希望される場合は家族の協力の下、受診を実施して頂いている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションによる健康チェックを各ユニット2週間毎に実施している。職員により状態報告や相談を行っている。必要時は看護師より医師に連絡を取り判断を仰ぐ場合もある。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医との連携を図ることで入院時の情報提供が出来ている。早期退院に向けて病院関係者との情報交換を行うなど関係づくりに努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の介護については事業所での対応が可能な限りご本人・ご家族の意向に添えるよう、医師・看護師などと話し合いの場を設け取り組んでいくよう努めている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のフローチャート、緊急連絡網の作成を行い事故発生後に再度確認することで緊急時に対応できる体制に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。また、校区安全安心マップを掲示し避難所・避難場所の把握し近隣の方には施設が避難場所になることを伝え協力体制に努めている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩、目上の方々であることを常に意識し言葉遣いや態度が相手の方に不快な思いを持たれないよう注意した対応に心掛けている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が望まれることを日頃から感じ取り、一方的な支援にならないよう選択肢を設けながら自己決定できる機会を作るようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく一人ひとりがどう過ごされたいか、一日の流は入居者の方々の状態や希望に可能な限り合わせ支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容は本人で不十分な部分は支援し身だしなみに気配りをしている。また、行事や外出の時には普段お化粧をされない方も薄化粧をする等し気分転換をしていただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食手作りの食事を提供し一緒に出来る部分は協力していただいている。おやつは希望される物を尋ね一緒に作る、買い物に行くなどし楽しみを作るようしている。月に数回お弁当やお好み焼きパーティー等を企画し食事のバリエーションを考えている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事・水分量の把握を行い、不足している方には捕食や好きな飲料の提供を実施している。また、食事形態も状態に合わせて対応できるよう日々の観察を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い実施している。義歯使用の方は夜間ボリデントでの消毒を行い必要な方は訪問歯科によるケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを理解し記録をしている。排泄表を使用しているが記録に囚われず本人からのサインを見逃さないよう努めている。失敗の少ない方はリハパンから布パンツへの変更等に取り組んでいる。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については訪問NSにも相談し排便コントロールを行っている。下剤だけではなく、散歩の実施、ヨーグルトや乳製品を活用することでスムーズな排便に心掛けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	週3回の入浴を提供している。入浴日は決まっているが本人の体調や状態、希望に合わせて入浴日の変更を行い気分転換の場となるよう配慮している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせて就寝時間は決まっていない。眠たくなるまで過ごしていただける環境を作り安心して眠れるよう支援している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は医師の指示の下、調剤薬局と連携し把握に努めている。不明な点があれば調剤薬局に連絡し確認している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を大切に趣味や得意なことを理解し入居後も本人の楽しみとなるような活動の場を設け生きがいとなるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションでの散歩や希望があれば可能な限り外出し気分転換ができるよう努めている。また、行事計画の中に四季に応じた外出計画を立てその中にご家族と一緒に外出できる機会を設けている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族の意向により小額の現金を所持されている以外は金銭所持はされていない。必要時は立替金で購入可能としている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が手紙を書かれる際の支援、ご家族からの電話の取次ぎなど本人、家族の意向に応じ対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは自然採光で風通し良く窓の外景色も気持ちを和ませている。光に敏感な方にはカーテンを利用する等し落ち着いて過ごせる空間作りに努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、食堂、居室と好まれる場所で自由に過ごしていただいている。居間ではソファでくつろぎテレビを楽しみ、食堂では好きなＣＤを聞かれる等思い思いに過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトはご本人、ご家族が入居時に本人が使いやすいよう設置され安全にも配慮されている。写真や小物を飾ることで自分らしさの演出もされている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアには手すりの設置、トイレ・浴室には手すりに加え呼出しボタンを設置、玄関にはテレビ付きインターホンを設置し安全に配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）		①毎日ある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 （参考項目：30）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない